



知床科学委員会 しんぶん

エゾシカ・陸上生態系

ワーキンググループ NO.12



「知床で今何が起きているの!」「どんな調査が行われているの!」など、タイムリーな情報をお伝えします。

エゾシカ・陸上生態系 ワーキンググループって?

知床半島で、エゾシカや陸上生態系の管理をどのように進めるのか議論するための会議です。

この会議での意見をもとに、さまざまな事業が進められています。

今回の会議

平成 28 年10月7日（金）釧路市生涯学習センターにて、今年度第2回目の会議がありました。

必見!
TOPIC

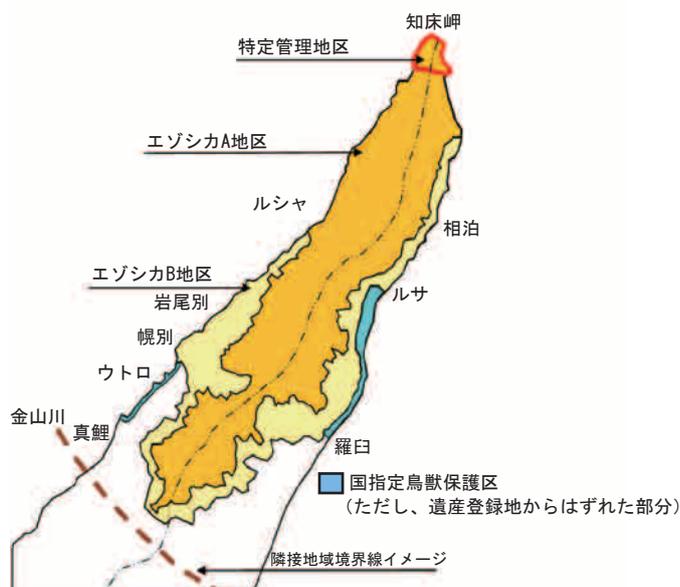
まもなく始まります 第3期知床半島エゾシカ管理計画

平成 19 年度にスタートした「知床半島エゾシカ保護管理計画」は、5 年を 1 期としており、今年度は第 2 期の最終年度にあたります。今回の会議では、これまでの成果を総括し、今後どのような方針で計画を進めていくかを話し合いました。

平成 29 年度からスタートする第 3 期は、植生のさらなる回復をめざしてエゾシカの捕獲を各地区で継続します。また、植物たちの回復状況のモニタリングに、これまでに議論してきた植生指標(ものさし)を実際に使ってみる予定です。なお、本計画の名称は、第 3 期から「保護」が除かれ、「知床半島エゾシカ管理計画」に改められます。



釧路で行われた本会議の様子



知床半島エゾシカ管理計画・地区区分図

会議で細かい管理方針が話し合われているんだね



対象地域

- ・エゾシカA地区
- ・特定管理地区
- ・エゾシカB地区
- ・隣接地域

原則人為的介入をしない地区。

必要に応じ人為的介入（防御的手法と個体数調整）をする地区。ここでエゾシカの捕獲事業が実施されます。

今回主に話し合ったこと

- ① 第3期知床半島エゾシカ管理計画（素案）について
- ② H28 シカ年度植生モニタリング事業結果報告
- ③ H28 シカ年度冬季事業実行案について
- ④ 平成27年度長期モニタリング事業評価

台風の爪痕

～エゾシカ捕獲事業への大きな影響～

羅臼町のルサー相泊地区では、平成21年度からエゾシカの捕獲事業（主に環境省事業）を行ってきました。

しかし、8月から9月にかけて北海道を襲った連続台風の影響で土砂崩れが発生し、ルサーから相泊の間の道路が通行止めになってしまいました。そのため、今冬の羅臼町側遺産地域内でのエゾシカ捕獲事業は、手法などを変更して行う予定です。

土砂崩れなどの災害は、エゾシカの捕獲計画にも大きな影響をもたらしています。



羅臼町昆布浜地区で発生した土砂崩れ

エゾシカ

エゾシカ生息密度のジレンマ

～植物の回復に必要な密度と、エゾシカの活用に必要な密度～

エゾシカが好んで食べる広葉樹の稚樹が全滅しないようにするためには、エゾシカの生息密度を1平方キロメートルあたり5頭以下にしなければならぬと言われています。「知床半島エゾシカ保護管理計画」でもこの生息密度を目標としており、一部の地区では、もうすぐこれを達成できそうな状況です。一方、特に遺産地域隣接地では、低コストでエゾシカの生息密度を適正に保つため、エゾシカを食肉などとして有効活用させながら個体数調整を行える地域社会の仕組みが求められます。このような仕組みは、エゾシカが減り過ぎてコンスタントな捕獲が出来なければ維持が困難になります。しかし、あまり密度が高いと、植生に甚大な影響があり、種類によっては絶滅しかねません。何事もバランスが大切ですが、植生に大きな影響を及ぼさず、かつエゾシカを低コストで適正な生息密度に保つことは難しい事だと考えさせられます。

斜里町側の幌別、岩尾別地区のエゾシカ生息密度は、過去6年間で10分の1近くまで減りました。ガイドさんたちからは、「エゾシカが減ったせいで見せるのが難しくなった」との声も聞こえてきます。これも、植生の回復に必要なエゾシカ密度と、観光資源として活用しやすいエゾシカ密度との乖離の一例かもしれません。



囲いわななどで生きてまま捕獲されたエゾシカは斜里町の有効活用施設で一時養鹿されています

エゾシカは今より減るけど、彼らに食べられていた植物が復活すれば、知床本来の姿が見られるようになるね。



会議の内容をもっと知りたい方はコチラ
知床データセンター
<http://dc.shiretoko-whc.com/>

他にも知床で行われている様々な研究データをご覧いただけます！



■問合せ先■

環境省釧路自然環境事務所

〒085-8639

北海道釧路市幸町 10-3 釧路地方合同庁舎 4 階

TEL 0154-32-7500 FAX 0154-32-7575